

## 「東三河視察会」で感じた地域の「熱」

公益財団法人中部圏社会経済研究所 研究部長・主席研究員 難波 了一  
 公益財団法人中部圏社会経済研究所 企画調査部長 松田 直己

愛知県新城市では毎月第4日曜日に「しんしろ軽トラ市（のんほいロット）」が開催されている。当財団ではこれに合わせ、9月23日、24日に役職員有志<sup>(※1)</sup>4名が「東三河視察会」と称し、「しんしろ軽トラ市」をはじめとした愛知県東三河地域各所の視察を行った。本コラムではわれわれが視察を通じて感じた当地域の「熱」をお伝えしたい。

### <東三河地域の概観>

東三河地域は豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村の8市町村で構成される。地図上の位置としては東京と大阪の中間近くにあり（図1）、温暖な気候の恩恵を受けて農業が盛んとなっている。また、中部圏の他地域と同じく製造業も盛んである。一方で、人口減

少、少子高齢化に直面している点は国内の多くの地域と共通している。表1は東三河地域8市町村の人口、人口増加率、高齢化率と当財団が開発・公表している「地域力フロー指標」<sup>(※2)</sup>についてまとめたものである。東三河地域の人口は国勢調査の



図1 愛知県東三河地域

表1 東三河地域8市町村の概況

	人口 (単位：人)	県内順位 (54自治体中)	人口増加率 (単位：%)	県内順位 (54自治体中)	高齢化率 (単位：%)	県内順位 (54自治体中)	地域力 フロー指標	県内順位 (54自治体中)
全国	126,146,099		▲ 0.7		28.0			
愛知県	7,542,415		0.8		24.7			
名古屋市	2,332,176	1	1.6	19	24.3	34	68.08	4
東三河地域	748,230		▲ 1.2		27.3			
豊橋市	371,920	5	▲ 0.8	40	25.7	27	58.07	27
豊川市	184,661	8	1.2	21	26.1	23	56.55	37
蒲郡市	79,538	23	▲ 1.9	45	29.4	11	52.89	46
新城市	44,355	38	▲ 5.9	50	36.1	5	51.68	50
田原市	59,360	33	▲ 4.8	49	28.1	13	54.57	41
設楽町	4,437	52	▲ 12.6	53	51.0	2	43.25	51
東栄町	2,942	53	▲ 14.6	54	50.6	3	38.43	53
豊根村	1,017	54	▲ 10.4	51	52.4	1	27.28	54

(出所) 総務省「国勢調査」(2020年調査) および中部圏社会経済研究所「地域力指標」より作成。

(※1) 辻俊也、大谷祥吾、松田直己、難波了一の4名。

(※2) 「地域力フロー指標」は地域により多くの人々を呼び込む魅力を評価した指標である。指標の値はおおむね全国平均を50とした時の偏差値である。当財団が開発・公表している「地域力指標」にはこのほかにも自治体の持続可能性を評価した「地域力ストック指標」がある。「地域力指標」の詳細については<https://www.criser.jp/bunnseki/shihyo.html>を参照されたい。

2020年調査では748,230人と県人口の一割程度を占める。豊橋市が371,920人で県内54自治体中の5番目、豊川市が184,661人で同じく8番目に相当しており、地域全体で見た人口規模は存続が危ぶまれるほど小さいものではない。<sup>(※3)</sup>一方、人口増加率（2015-2020年の5年間）を見ると、県内の他地域と比較して減少率の大きさが際立っている。豊川市が1.2%と増加している以外は地域で最も人口が多い豊橋市で▲0.8%と全国平均の▲0.7%を上回る減少率となり、東三河地域全体で▲1.2%、特に設楽町、東栄町、豊根村は2桁の減少率となっている。高齢化率についても全自治体が愛知県全体の平均である24.7%を上回っており、特に設楽町、東栄町、豊根村は50%を超えている。人々を地域に呼び込む魅力を評価した「地域力フロー指標」<sup>(※4)</sup>で見ても、指標の値が全体的に高い愛知県にあっては、東三河地域のほとんどの自治体が下位にある。

以上のデータからは東三河地域が直面しているやや厳しい現実が浮き彫りになる。とはいえ、こうしたデータは地域の一面を示しているに過ぎず、実情を知るためには現地へ赴き、土地の空気を吸って、食材を頂戴し、多くの方々と触れ合うことにまさるものはないだろう。

今回の視察会でわれわれが訪れたのは豊川市、蒲郡市、新城市の3市である。以下にその詳細を記す。

#### <東三河視察会 1日目（9月23日）>

1日目の午後は蒲郡市のラグーナテンボスを訪問した。ラグーナテンボスはテーマパークとしての「ラグナシア」やショッピングモール、レストランなどの「フェスティバルマーケット」などからなる。<sup>(※4)</sup>フェスティバルマーケット内では海鮮やバーベキューを楽しむことができるほか、地元の野菜や果物などを買うことができる。地域の食材の豊かさを十分に感じる事ができる場所と言え

よう。今回の視察に限れば、海外からと思われる観光客はあまり見られず、比較的近隣から来ていると思われるファミリー層が来客の中心となっていた。プール営業の最後の土日でもあり、ラグナシアはもちろん、フェスティバルマーケットもにぎわっており、特に小さな子供の家族連れが多く、子供たちの笑顔にあふれていたことが印象に残った。我々は外からラグーナテンボスをレジャー観光地として見ていたが、それはもちろんのこと、やや広域で見た住民の皆さまのwell-beingを高める場所としてのポテンシャルを十分に感じる事ができた。



ラグーナテンボス（フェスティバルマーケット）内のバーベキューレストラン。施設は子供たちの笑顔にあふれている。

#### <東三河視察会 2日目（9月24日）>

「しんしろ軽トラ市（のんほいロット）」に出かける前に、まずは新城市の「道の駅 もっくる新城」を訪問した。朝食に道の駅の名物となっている新城産の卵を使った「卵かけご飯モーニング」をいただく。

「道の駅 もっくる新城」は新東名高速道路新城インターチェンジの出口に直結する「東三河ハブステーション」である。休憩や食事がとれるほか、地域の魅力ある商品が販売されている。また、新東名高速道路経由で東京～京都・大阪間的高速バスが運行されるようになり、JR高速バスの乗

(※3) ただし、設楽町、東栄町、豊根村はそれぞれ県内でも極端に人口が少ない自治体である。

(※4) <https://www.lagunatenbosch.co.jp/index.html>

務員交代基地として道の駅近くにジェイアールバス関東株式会社の支店が設置されるとともに、新城市とジェイアールバス関東株式会社が包括連携協定を締結した中で道の駅に高速バス停留所が新設され、若年層を中心に東京・関西からのアクセスが飛躍的に改善し、この地域でも注目されている。

このような状況から、日曜日でもあり観光での立ち寄りが多いイメージをしていたのだが、地元の方々も多かった。地域住民の憩いの場にもなっているようだ。とにかく卵とトッピングの具材が新鮮で美味しい。平均年齢50歳を超える役職員4名全員が茶碗3杯を平らげた。冷静に周りを見渡すとわれわれよりもさらに年配の方々も同じ量を食している。地産食材で地域の高齢者の健康や活気が増進されているのが見てとれた。



「道の駅 もつくる新城」の「卵かけご飯モーニング」。トッピングも豊富。年配の方々もペロリと平らげていた。

朝食後、同じく新城市内の新城中央通り商店街に場所を移動し、今回の最大の目的である「しんしろ軽トラ市（のんほいルロット）」を視察した。「軽トラ市」は軽トラの荷台をお店にした朝市のことで、例えば、地場産の野菜や花のほか、衣類や雑貨などを対面販売しているのだが、マッサージ等のサービスも提供しているのには驚いた。飲食のお店も多く、祭りに来たような楽しさがある。<sup>(※5, 6)</sup>



大勢の来場者で、祭りのようににぎわいの「しんしろ軽トラ市（のんほいルロット）」。

ここでは、当財団「中山間地域におけるまちづくり研究会」の座長をお願いしている戸田敏行先生（愛知大学三遠南信地域連携研究センター長）や同じく委員をお願いしている田村太一氏（一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム専務理事）にお会いした。戸田先生のゼミでは過去から継続的に「軽トラ市」の調査、研究を実施しており、スズキ株式会社との間で共同研究も進めておられる。戸田ゼミの学生さんによる企画や調査内容の説明には次から次に人がやってきて、学生さんが熱心に説明し、来場者は真剣に耳を傾けていた。ほかにも、地元の高校の生徒による出店など、年配者のみならず若者が地域交流の場に参加し、そのパワーが地域に元気を与えていると感じ取れた。

田村氏も地元の方として、日頃から地域づくりに積極的に関わっておられる中で、軽トラ市でも催事のご協力をされておられた。戸田先生も含め、そのような方々に当財団が地域づくりの研究支援をいただいているのは本当に心強いと感じたところである。

次に、軽トラ市訪問地域の歴史的・象徴的な施設を巡った。まずは、NHK大河ドラマ「どうする家康」でもとりあげられた「長篠の戦い」の舞台となった新城市内の長篠城跡<sup>(※7)</sup>を視察。織田信長、徳川家康、武田勝頼などはもちろん、地元の英雄・

(※5) <https://www.city.shinshiro.lg.jp/kanko/event/keitoraichi.html>

(※6) なお、「しんしろ軽トラ市（のんほいルロット）」は「日本三大軽トラ市」の一つとされる。

鳥居強右衛門にも思いを馳せた。ここでも、視察時には海外からと思われる観光客はほとんど見られなかった。歴史に関心の高い方々が近傍の名所も含めてサイクリングやウォーキングなどを兼ねて訪れているという印象であった。



長篠城址史跡保存館。中では鉄砲などが多く展示されており、歴史を学ぶことができる。

その後、いったん豊川市内の温泉施設で休憩し、郷土料理の五平餅を口にして、妙巖寺（豊川稲荷<sup>(※8)</sup>）に到着。ここは豊川「稲荷」と呼ばれるもののれっきとした寺院である。境内は非常に広いが、参拝者で混んでいる。全体的にとってもきれいで、くまなく回れば相当の距離を歩くことになるが、参拝者の顔は一様に明るく疲れた様子はない。圧巻は霊狐塚。およそ千体にのぼる狐像を祀っているとのこと。国内はもちろん、海外の観光客にとっても非常に印象深いと思われる。豊川稲荷は寺院、稲荷、神社といった日本人の精神文化を理解してもらうのに最適な場所と言えるかもしれない。なお、周辺には「いなりずし」が食べられるお店が多く、われわれも遅い昼食を最後にとって東三河地域を後にした。

東三河地域はデータ上では愛知県他地域と比較した場合に人口の減少、高齢化が際立っている。しかし、現地を訪れてみれば、子供、高齢者、若者のいずれもが活力をもって生活できるポテンシャル



豊川稲荷。境内は非常に広いがとてもきれい。霊狐塚は圧巻。

に満ちた地域であることがわかる。また、海外の観光客にも十分にアピールできる力があることも確認できた。われわれ自身にとっては、地域のシンクタンクとして少しでも地域の発展に寄与できる研究を進めなくてはならないことをあらためて深く認識させられるものとなった。今回の「視察会」は東三河地域の豊川市、蒲郡市、新城市の3市にとどまったが、今後さらにさまざまな対象エリアをみていきたい。今後も少しでも中部圏の地域の「熱」を伝えることができれば幸いである。

(※7) <https://www.city.shinshiro.lg.jp/kanko/minzokugeino/nagashinojyoato.html>

(※8) <https://www.toyokawainari.jp/>